

「光徳寺善隣館だより」—春号—

発行人 社会福祉法人 光徳寺善隣館
 理事長 佐伯 祐善

待ちに待った新園舎が、完成しました！

旧園舎を解体・更地にして、ほぼ1年が経ちました。資材高騰による設計変更や建設確認書交付の遅れなどから建築開始時期が予定より遅れ、新園舎の完了が大幅に遅れましたが、建築会社等のご努力のおかげで、何とか3月末の建築確認と消防検査など無事終了しました。

それを受けて、子ども達が大阪市泉尾の仮園舎からの引っ越しも4月17日に予定しております。引越しまでの支援学校の送迎も、学園車やレンタカー、ジャンボタクシーで行っていますが、21日からは、学校の送迎バスで、みんな揃って通学します。

新園舎の見どころ！推しどころ！

新園舎は5階建てです。南海トラフなどによって北側（200m先）の淀川が氾濫しても、大丈夫なように、居室は3階以上、屋上は避難場所になっています。

事務室と園長室は、2階にあります。1階は、厨房やクラフト室です。

昨今の事件事故を踏まえて、セキュリティ対策も万全です。

給食関係は業務委託ですが、厨房の機器は最新鋭の物です。また、大型洗濯機と脱水乾燥機も最新鋭機器で、一時に30人分は洗える大きさです。

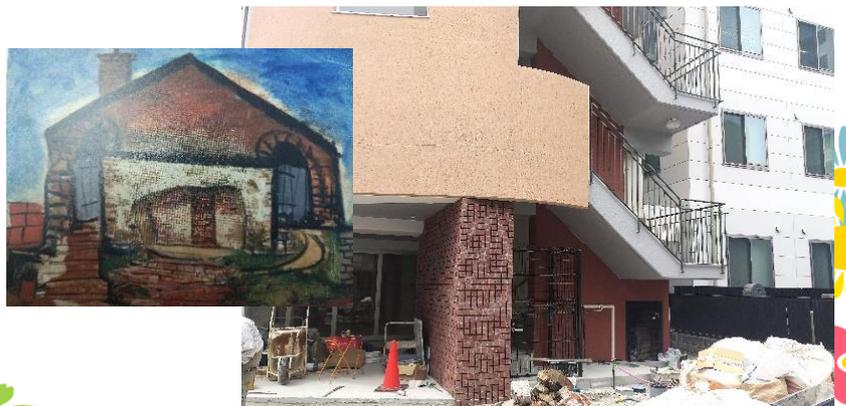
エレベーターは、朝の登校時にたくさん乗れる15人乗りの大きさにしました。

1階正面の地域交流センターの役割を兼ねたアートクラフト室は、全面ガラス張りです。明るく心地よい居場所になりそうです。夏は暑いけれど冬は陽だまりでほっこりできそうです。クラフト室の前に少し広場を設けています。施設の奥には、光徳寺という400年続くお寺と墓地があります。広場は参拝に行かれる方の休憩所になっていて、学園のイベント時には、ここも地域交流の場となります。

西洋画家として著名な佐伯祐三はこの光徳寺で生まれました。その生誕の碑は、正門に移築し、道行く人がいつでも見られるようにしました。

施設の顔である、正門のデザインは、鉄材階段のデザイナーで佐伯家の親族でもある、大住豊氏（東京在）の作品になる予定です。

新園舎の外壁の色は、うす茶色・小豆色・グレーを基調として、レンガ材を正面壁面にあしらっています。佐伯祐三の「煉瓦工場」の絵画を彷彿させる色調とデザインです。



新園舎のオープニングセレモニーについて

オープニングセレモニーは、11月23日(祝・日)を予定しています。4月に完成しているのに、えらい遅いお披露目やなあ?とおっしゃる方が、多いかと思えます。引っ越しして新園舎での生活に慣れてからオープニングセレモニーを行うことにしました。7~9月の暑い時期でのオープニングは、避けたいので、気候の良い11月に設定した次第です。

内容は、バザー、喫茶コーナー、音楽演奏などを企画しています。楽しみにしててください。たくさんの方のご来場をお待ちしています。

クラウドファンディングにご支援いただいた方々によるイベント予定について

昨年11月1日~12月16日までの期間、「洋画家佐伯祐三の生家で障がい児と地域のアート拠点とアーカイブギャラリーを作りたい」をテーマにクラウドファンディングに挑戦することになり、たくさんのご賛同・ご協力をいただきました。皆様には、心より感謝申し上げます。

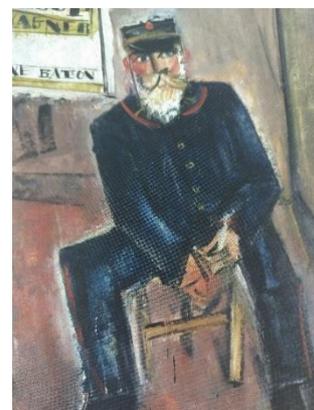
クラウドファンディングの返礼品として、各イベント開催参加券があり、令和7年10月25日(土)には、「こどもアートワークショップ」を(※時間は調整中)また、中津学園周辺のゆかりある地を巡る「まち歩き」や建物の様子、佐伯祐正・祐三の業績を知ってもらうためアーカイブや模型の説明も含めた「館内見学会」等をオープニングセレモニーと同日に開催予定しております。

令和7年8月までにホームページ、Facebook、Instagramで中津学園の紹介記事やイベント紹介等が開設予定となっておりますので、お見逃しなきよう、どうぞ期待!



大阪メトロ中津駅にてデジタルサイネージ動画が開始

令和7年3月31日から佐伯祐正・祐三の生誕の地として中津駅にて学園の紹介動画が開始されました!約2分程ですが、初日から「見たよ!」とメールを頂きました。約1か月間放映されますので、是非ご覧ください!



中津学園園舎建替え工事にかかる寄付金募集について

長らくの間、皆様からのお心のこもったご寄付を頂きまして、職員一同より深く感謝申し上げます。今後も引き続きご協力・ご賛同いただければ幸いですのでよろしくお願いいたします。

中津学園園長：渡辺 祐子